



認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう **みんぐる**

mingle

2025.3
Vol.80



たぶんかギャラリー

<イエメン>

ジャンビア（短剣）のお店

たぶんかフリースクール荒川校メタクさん提供



Top News … 1

わたしのくに紹介 … 1

特集：… 2・3

たぶんかフリースクールの毎日… 4・5・6

活動報告（土曜日学習支援教室）… 7

活動報告（行政との協働事業・高校支援事業）… 8

活動報告（放課後教室）… 9

イチオシ … 9

卒業生にインタビュー … 10



代表 栞木 典子

2024 年度の多文化共生センター東京は、コロナ禍が収束した昨年をさらに上回る多国籍で多様な文化を持つ子どもたちが集う場でした。たぶんかフリースクールでは、18 かの生徒が学びました。土曜日のボランティア活動日では、学びを求める子どもたちの数が、ボランティアさんの数を上回る日が続きました。東京の在住外国人数は、2025 年 1 月現在約 72 万人と過去最高となり、増え続けています。都内、近県からの教育相談は、250 件を超え、学ぶ場を探す子どもたち、保護者の声は切実です。学校教育だけでは、対応しきれない状況が続いており、地域と連携しながら子どもたちの成長を支援していく必要があります。たぶんかフリースクールで学んだ子どもたちは、来日してからの生活に対して、さまざまな感想を残しています。

「いろいろな国の人と話せることで、新しい文化を知ることができました」

「フリースクールで過ごした時間は、勉強だけでなく大切な出会いもくれました」

「いろいろな国の友だちができた。友だちと一緒に勉強することが、とても面白かった」

「みんな自分の未来のために努力します」

「これからの道はまだわかりませんが、ここで学んだものを胸に一歩ずつ前に進んでいきたいです」

子どもたちは新しい出会いの中で、多様性や多文化の豊かさ面白さを発見し進もうとしています。世界は、異なることへの理解や敬意を持つことの大切さよりも排除や不寛容の動きに揺れています。私たちは、こうした動きの中で、再度、多文化共生センター東京のビジョンやミッションについて考えていきたいと思っています。

わたしのくに紹介 ～イエメン共和国～



今号の「わたしのくに紹介」は、アラビア半島の南西部にあるイエメン共和国です。3月にたぶんかフリースクール荒川校を卒業したメタクさんの出身地です。面積は 55.5 万平方キロメートル（日本の約 1.5 倍弱）、人口は約 3,370 万人(2022 年)、公用語はアラビア語です。首都サヌアにある旧市街地は、紀元前 10 世紀頃から存在する世界最古の街の一つといわれ、かつては「海のシルクロード」の中継地としても機能していました。現在旧市街地は、ユネスコの世界文化遺産にも登録されています。「モカコーヒー」というコーヒーの名前は、かつてイエメンの港町モカからコーヒー豆が積み出されたことが由来となっています。



表紙の写真はジャンビアとベルトを売っているお店にいる幼い時の私です。小さな剣を差しています。ジャンビアは伝統的な短剣で、柄にはガゼルなど動物の角が使われており、剣先は三日月のように曲がっています。結婚式やお祭りの時など男性が腰に差します。

私は首都サヌアの南にあるアルマウイト県から来ました。古い建物が残っています。

イエメンで有名な食べ物は鶏などの肉とご飯を一緒に食べるマンディー（Mandi）です。トマトと唐辛子のソースをかけて食べ、とてもおいしいです。
(メタクさん)

特集

数字から見る外国ルーツの子どもたちを取り巻く状況について

文部科学省が実施する「外国人の子供の就学状況等調査」「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」、法務省の「在留外国人統計」や高校入試の状況など、いくつかの統計結果を基に、外国ルーツの子どもたちを取り巻く状況について報告します。

○外国籍の子どもたちの就学

小中学校に通う外国籍の児童生徒も増加傾向が続いています。2023年5月時点で学齢相当の児童生徒（図1）は150,263人、前年よりも13,772人（10.1%）増加しました。そのうち不就学の可能性がある子ども（赤い囲みの合計）は8600人と前回調査より5.1%増加しています。自治体の就学案内が徹底していないこと等により、依然として多くの子どもたちが学校教育を受けられていない可能性があります。

【図1】外国籍の児童生徒就学状況(2023年度)

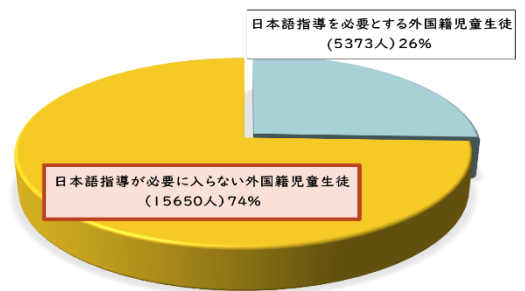
	就学		③ 不就学	④ 出国・転居	⑤ 就学確認できず	計	⑥ 住民票との差
	①義務教育諸学校	②外国人学校等					
小学生相当	90,789	7,462	641	2,673	4,701	106,281	259
中学生相当	36,450	3,531	329	1,160	2,498	43,982	173
合計	127,239	10,993	970	3,833	7,199	150,263	432
構成比	84.7%	7.3%	0.6%	2.6%	4.8%	100%	

不就学の可能性：約8,600人

○日本語指導が必要な子どもたちへの対応の遅れ

東京都の外国籍児童生徒は2023年5月時点で21,023人となっています。そのうち日本語指導が必要とされている生徒は5,373人と26%に留まっています（図2）。日本語指導が必要かどうかの判断基準は「学校生活や学習の様子」「来日からの期間」などが多く、客観的な言語能力の測定基準で判断している学校は21%とのことです。別の調査では全国平均で外国籍児童のうち日本語指導が必要と判断されている割合は41%であり、東京都の26%という数字が非常に低いことがわかります。日本語指導が必要なのに、見落とされている子が少なからずいるのではないのでしょうか。

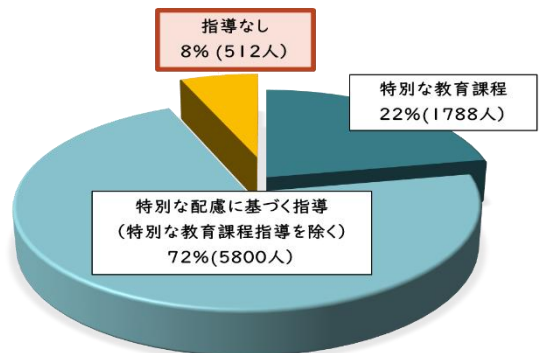
【図2】東京の外国籍児童生徒の日本語指導が必要な割合(2023年度)



また、日本国籍を含めた日本語指導が必要とされた児童生徒6,312人のうち、指導を受けていない生徒が512人おり、子どもたちの増加に学校の対応が追いついていない様子が伺えます（図3）。

【図3】東京の日本語指導が必要な児童生徒の日本語支援状況(2023年度)

日本語指導が必要な児童生徒数	6312人 外国籍:5373人 日本国籍:939人
特別な配慮に基づく指導を受けている児童生徒数	5800人
上記のうち日本語指導における「特別な教育課程」による指導※を受けている児童生徒数	1788人
指導を受けていない	512人



※日本語指導における「特別な教育課程」による指導：児童・生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的として、児童・生徒が学校生活を送る上や教科等の授業を理解する上で必要な日本語の指導を、在籍学級の教育課程に位置付け、在籍学級以外の教室で行う教育の形態です。

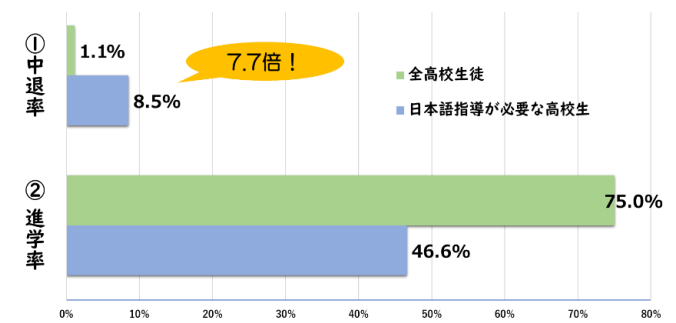
○日本語指導が必要な子どもたちの進路状況

2022年度末の日本語指導が必要な中学生等の高校等への進学率は90.3%と全中学生等の99.0%を大きく下回っています。

また、同年度の日本語指導が必要な高校生等の中退率は8.5%（前回調査6.7%、全高校生等1.1%）、大学等への進学率は46.6%（前回調査51.8%、全高校生等75.0%）、就職者における非正規就職率は38.6%（前回調査39.0%、全高校生等3.1%）と大きく差がついています（図4）。高校進学後も教科や進路指導も含めた適切な支援が必要です。

※参考資料：文部科学省「令和5年度外国人の子供の就学状況等調査」及び「令和5年度日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」、法務省「在留外国人統計」、東京都教育委員会発行「日本語指導に関する資料」
※本文中の図表は上記資料を基に作成しました。

【図4】日本語指導が必要な高校生等の中退・進路状況(2022年度)



〇都立高校 在京外国人生徒等対象入試の状況

昨年度の在京入試は、来日生徒が急増する中、8校で実施され募集総数160人に対し309人が応募し、149名不合格という厳しい状況でした。そのため、2025年度入学選抜では、いくつかの改善がありました。

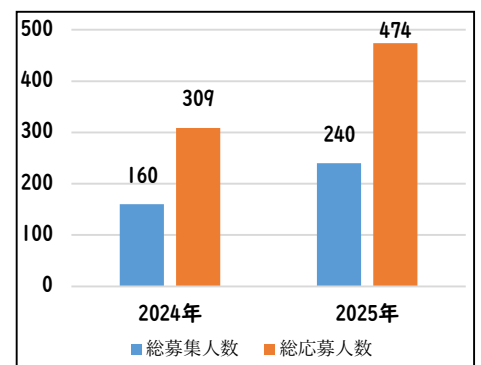
右表の主な変更内容②
国籍要件では、国籍を問わず日本語指導が必要な生徒が受験できる

在京入試の主な変更内容	
① 在京枠校数及び定員数	8校から 12校 に増 総募集人数180人から 240人
② 国籍要件	国籍を問わず 日本語指導が必要な生徒
③ 在日期間(中学3年生)	来日3年1か月から 3年3か月

ようになり、日本国籍でも高校進学の実選択肢が増え大きな前進でした。

これらの改善を受けて、2025年度在京入試が1月に実施されましたが、12校240名の募集に対して474名が応募し、不合格者は昨年を大きく上回る234名でした(図5)。日本語指導が必要な生徒に配慮された特別入試は、社会変化に追いつかず、趣旨とはかけ離れてハードルの非常に高い入試となっています。12校からさらに増やすことが必要です。

【図5】在京枠入試応募状況比較



〇入試科目について

在京入試は作文と面接で、それ以外の一般入試は教科での受験です。

	入試	選考方法	備考
1月	在京入試	作文・面接（日本語か英語）	在京入試の倍率は、2倍越え。
2月	一次・前期	全日制（5教科）定時制（3教科）	
3月	二次・後期	3教科	2025年3月都立高校 三次募集 全日制55校 募集1567人
	三次募集	3教科	

受験生は、1月の在京試験に向けて過去のテーマを調べ、600字で書けるように何枚も作文を書き面接練習もします。しかし、不合格になると、今度は5教科や3教科に切り替えて学習しなくてはなりません。今年、在京入試を受けた生徒から自分の書いた作文や面接について、「どう評価されたのか具体的に知りたい」という声がありました。確かに教科の判定と違い、判定基準は曖昧で学校によって違いもあるようです。在京入試の作文、面接の選考方法は、日本語力、英語力のみでの判定で、学力全般についての選考ではありません。進学後の高校での学習につながり、受験する生徒自身も納得できるより客観的な判定基準の選考にする必要があります。なお、都立高校全体の入試状況については、3月三次募集で、欠員募集実施の全日制高校は55校、募集総数は1,567人に上り、3月まで待っても受験すれば進学できる状況が生じています。授業料無償化の影響もあり、こうした状況は今後さらに進むと考えられます。日本語指導を必要とする対象生徒増を想定し、公立高校での日本語指導、教科指導の充実が一層、求められています。

卒業おめでとう！

3月15日（土）、サンパル荒川にて2024年度たぶんかフリースクール卒業を祝う会を行いました。本年度の卒業生は荒川・杉並合わせて39名です。年度の途中でやめてしまった生徒も含めると1年間としては最大の18カ国の国と地域から生徒が集まり、高校進学を目指して一緒に勉強しました。

当日は先生やボランティアのかたがた、そして家族など支援してくれたたくさんの人たちの前でがんばったことやこれからの夢、歌や寸劇を堂々と発表しました。得意のダンスを披露する生徒もいました。最後に全員で「小さな世界」を合唱しました。

新しい道へ向かって力強く歩み始めた生徒たち、くじけずにがんばってください。



進学おめでとう！

2024年度卒業生の進学先	
東京都立高校（全日制）	18名
東京都立高校（定時制）	13名
埼玉県立高校（全日制）	4名
埼玉県立高校（定時制）	2名
私立高校	1名

卒業生のメッセージ

私たちは一緒に東京のセールスマンという会社に行き、いろいろな活動に参加しました。このとき、最初のスピーチのとき緊張しましたが、最後の司会まで、いろいろな困難を克服しました。この経験があたので、今は以前よりも、と勇氣を持っています。

杉並校日本語クラス1 Oさん



多文化フリースクールは素晴らしい学校です。小さい学校ですが、一緒にたくさんの活動をするのが楽しくてみんな仲良くなれます。先生たちはとても親切で協力的です。今では日本人の友達を作ることができると自信を持っています。

杉並校日本語クラス3 Nさん

学校での思い出は、私の大切な宝物です。先生や友達との出会いも、一期一会の心です。と覚えています。

人生自古誰無死、桃花依旧笑着风。



私はクラスメイトぜんいんが好きです。三クラスになれて本当にうれしいです。これまで学んだ日本語のおかげで、人前で話すのに十分な自信があります。

杉並校日本語クラス3 Aさん

先生たちと一生懸命面接を練習し、あの時は大変でしたが、皆と一緒に頑張ったのは本当によかったと思っていました。そして、試験の結果の発表の日、スマホで合格おめでとうと書いてあるのを見て、嬉しい気持ちで心に湧き出てきました。先生たちのおかげで、勉強して試験でも、私は先生のことをできるようになりました。

杉並校日本語クラス1 Lさん

いつの間にか卒業の時期が近づいていました。多文化の日には先生と知り合い、友達もできました。みんな自分の未来のために努力します。悲しみも喜びもあります。すばらしい物語です。

多文化の時間に、日本に来て一番楽しかった時期です。

荒川校日本語クラス3 Rさん

1年間 ありがとう ございます。多文化がなかったら、新しい友達も会えないし、入学試験も合格できなかったでしょう。入学試験は本当に難しかったですが、先生方の指導のおかげで合格できました。

荒川校日本語クラス1 Nさん

先生方はとても優しく、理解してくださったことに心から感謝しています。振り返ると、特別な思い出がないかもしれませんが、それでもこの学校を過ごした日々は、私にとって確かに意味があるものでした。

これからの道はまだ分かりませんが、ここで学んだものを胸に、一歩ずつ前に進んで行きたいと思っています。

荒川校日本語クラス1 Kさん

たぶんかフリースクール荒川校



荒川校の数学はレベル別に3クラス編成としており上級の数学Ⅰを担当しています。このクラスの生徒は日本の中学校の数学の内容はおおむねよく理解しており、生徒の多数を占める中国出身者は高校の数Ⅰのかなりの部分も既習ですが、空間図形は未習であるなど、カリキュラムは国毎に若干の違いがあります。日本語のレベルは生徒によってまちまちで、初級レベルでは計算問題以外は難しく、上級者でも文章題では「桜の開花日」など文化的背景を知らないと意味が通じない問題もあって、皆苦戦します。確率の問題で頻出の「さいころ」が通じないことや「白ゴマ・黒ゴマ」そのものを知らない生徒もいるなど、文化の違いも痛感します。また数学で使う日本語は、我々が普通に数学用語と考える「代入」や「合同」など以外でも、表現が一般に文語的で、「それぞれ」「〇〇において」など、日本語の上級クラスでもまだ習わない用語や用法が多く、これらの習得にも時間がかかります。



中学校数学の復習はほぼ半年で終え、年度後半は高校入試対策の模擬試験に明け暮れます。高校受験のサポートが最大の目的である以上、これはやむを得ないことではあるのですが、解法のテクニックに傾いて、数学の面白さを伝える授業がなかなかできないのが残念です。

【講師 佐藤 亨】

たぶんかフリースクール杉並校

昨年9月6日からスタートした日本語3のクラス。(今年3月14日無事終了) 生徒の一人として同じ国籍がいないという、まさに多文化共生のクラスでした。

イギリス・フィリピン・インドネシア・ウクライナ・バングラデシュ・ネパール・コンゴ民主共和国・中国の8か国8人。共通言語は英語のように見えて、その実、英語の苦手な生徒もいて、英語をヒンディー語に通訳してもらったりと、それなりに苦勞したようです。

それでも約6か月という短い間に、なんとか全員日本語で簡単な意思を伝えられるようになりました。

ある日、Jさんが「先生、ふゆください。」というので、「ふゆ??」頭の中は「?」だらけ。

あれこれ会話して、やっと「おゆ」だとわかりました。それでも、日本語で会話しようという前向きさに拍手です。

嬉しいことに自分の気持ちを短作文に書くことも、少しずつできるようになりました。「もしスーパーマンだったら」で、「100年後の世界に行ったら、平和な戦争のない世界になっているでしょう。」と書いたSさん。目の前に戦争のある世界に生きている私たちですが、100年後といわず、直ぐに戦争のない世界になってほしいと願わざるを得ませんでした。

8名の進路はさまざまですが、多文化で協力し合い頑張ったこの半年を糧に、素敵な未来がきっと開けると思います。



【講師 加藤 寿子】

ボランティアの活動報告

子どもたちとボランティアが和気あいあい

土曜日学習支援教室

何でもあり。何とかなる。何でも楽しい。土曜の午後、多文化共生センター東京でボランティア活動に参加するとき、この3つの言葉が、まるでキーワードのようによく心に浮かびます。

さまざまな国にルーツを持つ子どもたち。10代から70代まで世代も経歴も多岐にわたるボランティアたち。子どもに日本語や各科目を教えても、ゲームで遊んでも、お喋りに興じてもいい。毎週でも月に一度でも年に一度でも数年ぶりでも、ペースは人それぞれで問題なく、いつ来ても家族のように気さくに迎えらる……。いろいろな点で多様な土曜日学習教室は、良い意味でゆるい「何でもあり」の場なのです。

高校生以上であれば、参加するのに特別な資格やスキルは必要ありません。外国語ができなくても、理数系が苦手でも大丈夫。必ず誰かが助けてくれたり、子どもとのマッチングがうまく行ったりして、「何とかなる」のでご安心ください。きっと子供たちを笑顔にできます。

参加する理由も人それぞれ。可愛い子どもたちの役に立てるのが嬉しい、学習支援を通じて貴重な学びが得られる、年齢や立場を超えてボランティア仲間と交流できる……と、こちらも何でもOK、そして「何でも楽しい」のです。金子みすゞの有名な詩の一節「みんなちがって、みんないい」を体現したような週末の温かい空間に、ぜひお気軽にいらしてください。

【ボランティアリーダー 広部 潤】



学習者が語る「だから多文化が大好き！」

多文化では折り紙など「みんなで勉強」の時間が楽しいです。勉強できる雰囲気が良く、来るのを楽しみにしています。日本語でもっとペラペラ話せるようになりたいです。今は英検、日本語能力試験、中学の数学に向けた算数などを勉強しています。将来は翻訳家か医者、学校の先生を目指しています。自分が先生役として教える機会があるといいなと思います。もっと子どもたち同士が仲良くできる時間があるといいです。

(Lさん：小学生、中国出身)

最初は日本語の勉強のために、高校入学後は教科の予習復習、疑問の解消のために来ています。高校よりもっと知識を吸収できる場所だと思います。1時からの部でボランティアとして子どもに勉強を教えること、様々な先生方と話せることが楽しいです。将来はボランティアの経験を活かし先生になりたいです。

(Oさん：高校生、中国出身)

日本語を勉強したいので多文化に来ました。ここは気持ちが優くなる場所です。日本語と数学を頑張りたいです。将来はパイロットになりたいです。

(Bさん：中学生、ネパール出身)

多文化で勉強したこともあり、日本語ができるようになりました。高校に進学したら、もっと漢字を頑張りたいです。将来はビジネスウーマンとしてグローバルな仕事をしたいです。

(Pさん：中学生、ミャンマー出身)



【協働事業：荒川区立小中学校：ハートフル日本語適応指導事業】

日本語指導を必要とする児童生徒の増加にともない、2024年度のハートフルにもたくさんの生徒がやってきました。その多くが中学1年生でした。春学期の中学1年生というのは、ほとんど小学生です。一般的に年齢が低い方が多言語習得が早いと言われていてから、中1生は大人よりずっと早いはずですが。

ハートフルの前にフリースクールで15歳以上の生徒を教えていました。12歳と15歳は3歳違いですが、教えることに大きな違いがあると実感しています。母国で9年の教育を終えたフリースクール生は、母語を完全に習得しています。日本語の語彙や文章を母国語に変換して理解することができます。一方、小学生レベルの母語しか持たない生徒には、それが難しいです。

例えば、「食べる、行く、勉強する」などの動詞はよく理解します。しかし、「困る、考える、調べる」などは難しい。形容詞では、「長い、大きい、暑い」などはわかりやすく、「にぎやか、便利」などはピンときません。うるさくないという意味で「静か」は理解しますが、繁華と言う意味の「にぎやか」が難しいようです。「便利」は「不便」を知らなければ理解しがたく、生活経験の少ない年少者には不便なことが実感できないのでわかりにくいのでしょうか。フリースクールでは経験のないことです。いわゆる認知発達の差でしょうか。

そういう彼らも中学校生活の中でシャワーのように日本語を浴びるうちに、全身で日本語を習得していきます。通算6か月のハートフル学習が終わるころには、態度や持ち物も日本の中学生のようになっていきます。多言語習得には年齢だけでなく、学ぶ環境も大きな影響があると思います。

【講師 石塚 康子】

【高校支援事業】

今年度から多文化共生センター東京の自主事業として行ってきた高校支援ですが、①支援相談窓口の設置、②支援者交流会の実施、③高校支援の周知活動、この3つを柱に進めてきました。

今年度特に重視したのが支援者交流会の定期的な開催です。「高校で日本語を教える」と一口に言っても、教える人の立場は講師なのか指導員なのか、教える時間は授業なのか放課後に行う任意参加の補習なのか、対象者はレベル差のある生徒が混在するクラスなのかマンツーマンなのか等々により、それぞれが抱える課題は異なります。教える側も、経験二十年以上のベテラン日本語教師から、教え始めたばかりの人まで様々な中で、まずは全員に都立高校の仕組みやどんな支援が行われているのかなど基本的な共通理解を図るところからスタートしました。実施形式は、集まりやすいオンラインでの交流会（全5回）と、ざっくばらんに意見交換ができる対面の交流会（全3回）を組み合わせました。自主事業になってから初めての試みでしたが、毎回十数名が参加し、まずは「つながり」を作ることができたのではないかと思います。今後は、出された課題をどう解決するか、自分が頑張るだけでなく周りを巻き込むにはどうしたらよいかなど、より具体的な行動を考えるような勉強会も開催できたらと考えています。また、今年度は現在都立高校で支援中の方に限定して交流会を開きましたが、今後は「これから支援してみたい人」に向けた勉強会なども、他団体と協力しながら積極的に開いていけたらと思っています。



【高校支援事業担当 坂本 昌代】

たぶんか 放課後教室



子どもたちの支援を一緒に行っている
東洋大学の学生さんからの活動報告です。

たぶんか放課後教室で生徒と一緒に勉強するようになって 2 年が経ちました。この活動を通してたくさんのことを学び、たくさんを経験することが出来ました。特に印象的だったことは、「生徒の成長」と「受験の難しさ」です。まず「生徒の成長」について、生徒の多くが教室にはじめて来たころはあまり話さず、どこか遠慮しています。しかし、放課後教室で勉強したり、レクリエーションに参加したりして、少しずつ自信がついたのか、楽しかったことやちょっとした悩みなどを話してくれるようになりました。勉強も日本語や得意な教科だけでなく理科、社会、副教科など多くの教科に自分たちから挑戦し、ひとつひとつついでに学習を行うようになりました。「受験の難しさ」については、私も受験でとても苦労しましたが、外国にルーツをもつ生徒には独自の難しさがあることを実感しました。外国から来た生徒は出願の手続きや受験方式、学校での成績など受験に対する経験や知識が十分にありません。そのため日本の受験に対するイメージが持てるように、受験の情報提供や面接の練習などを繰り返し行いました。この活動を通して、私自身も成長できたと感じています。生徒の思いや目標を知り、それに向け一緒に試行錯誤しながら努力をしました。そのなかで改めて努力の大切さを再確認することが出来ました。2 年間毎週金曜日の 1 時間半という短い時間でしたが多くの課題を乗り越えて成長していく生徒たちを支援できたことはとても充実した日々でした。今まで貴重な経験をさせていただきありがとうございました。生徒たちとまたどこかであえることを楽しみにしています。



【東洋大学 4 年 原 駿介】

イ チ オ シ



『涙にも国籍はあるのでしょうか』

三浦英之著 新潮社刊 (2024/7) 1750 円+税

東日本大震災からしばらくたった今日、数えきれないほどの悲劇の現実を聞いてきているので今更さらに聞きたいと思わない人も多いだろうと思います。思うのだけれど、聞き逃している「悲しみの声」があったのかと考えさせられる書籍と出会いました。

あの日、押し寄せる波に飲み込まれたのは日本人だけでなく、被災地に居を構えていた外国籍の人達もいました。確実に。その事実に対して自分にはあまりに情報が不足していたことを実感させられました。

テレビもラジオも SNS もそんな情報なんて発信しない。日本のメディアの「最大公約数」は「日本人」であって「人間」ではないから。

「被災地帯」に対して助成が受けられるから取り分を減らさないために離縁させられる「外国籍の嫁」なんて想像できないし、「外国籍」だから「被災者」の対象から外れるなんて想像できない。全く。自分の住んでいる国がこんなにも「人間に冷たい国」だとは思いたくなかったし、考えたくもない。

でも現実として今、私がいるこの国にそんな現実があるのだと知る意味ではとても参考になる書籍でした。涙に国籍なんてあってはいけない（国籍によって人の死の解釈が変わってはいけない）と思う書籍でした。

是非、ご一読を。

【理事・土曜日ボランティア 松田 尋之】



フリースクールを卒業した若者は、どんな進路をたどっているのでしょうか。今回は、2017年度たぶんかフリースクール荒川校の卒業生で、現在東京音楽大学に在学している増田健一さんにお話を伺いました。



在籍時の担任、加藤先生と思い出話を
交えながらお話を聞きました

--来日したのはいつですか？

2017年8月に中国の南京から来ました。日本人の家族がいて、時々日本に来ていたので、日本での生活にあまり違和感はありませんでした。

--フリースクールでの勉強はどうでしたか？

日本語の読み書きは難しかったですが、今までも話す機会があり、それほどハードルには感じませんでした。中国ルーツの同級生も多くて、友達がすぐにできました。

--たぶんかを卒業した後はどうしましたか？

チェロをやっていたので、たぶんかに入った年の冬に実技と面接試験を受けて東京音楽大学付属高校に入学しました。

--高校生活はどうでしたか？

一般の科目は半分位で、音楽の授業が中心でした。室内楽の授業では好きなメンバーと演奏をすることもありました。1年目は中国人の留学生支援の先生のサポートを受けて、日本語を集中して勉強し、日本語能力試験N2に合格しました。気さくに話ができる友達もでき、楽しかったです。

--チェロはいつから始めましたか？

中国にいた14歳の時、母の勧めで、南京芸術学院附属中学校で学び始めました。弾き始めるうちに楽しくなって、打ち込むようになりました。

--大学生生活や演奏活動はいかがですか？

高校と違ってクラスが無くバラバラになりがちなので、できるだけ交友関係を広げるようにしています。音楽活動にも自主的に取り組み、全日本クラシック音楽コンクール室内楽部門全国大会や東京音楽大学連携シリーズ弦楽器四重奏コンサートに出演したり、ドイツのバイエルン州青少年オーケストラに交流生として参加しました。

私は、自分でソロを弾ける穏やかな曲が好きです。うまく弾けると達成感がありますが、目指しているレベルには届かず、反省することも多いです。

--将来は何をしたいですか？

音楽を教えることが好きなので、大学の講師になりたいです。音楽での実績や人とのネットワークが重要なので、4月から大学院に進み、勉強を頑張りたいです。コンサートなどの実績を積み重ねていきたいです。将来はクラシックだけでなく、映画音楽や作曲家からの演奏依頼にも応えられるよう幅を広げていきたいと思っています。

--フリースクール生へのアドバイスがあれば、教えてください

高校に行ったら、自分から働きかけて仲間を作ったほうがいいと思います。後からグループに入れてもらうのは難しいので、最初が肝心です。



チェロを弾く増田さん

(3/8開催のリサイタルのチラシより)

穏やかな人柄ながら、努力を積み重ね、自ら道を切り拓いてきたたくましさを感じました。3月8日にピアニストの永田結衣子さんと初めてのリサイタルを開催した増田さん。6月にもコンサートを計画しているそうです。今後の活躍が楽しみです。

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京

ビジョン

私たちは、国籍、言語、文化の違いをお互いに尊重する多文化共生社会を目指しています。外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

少数者へのカづけ（エンパワメント）

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ（大変さ・楽しさ）を理解し、多数者である「日本人も」変わり、少数者とともに生きていく

ミッション

- ・外国にルーツを持つ子どもたちの教育機会の拡大に努めます。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちが個性や能力を発揮し、日本で活躍できるような教育の実現に取り組みます。
- ・国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

ご支援のお願い

○当センターの活動や、当センターで学ぶ子どもたちをサポートするためのご寄付をお願いいたします。

一般寄付

多文化共生センター東京の活動全体へのご支援

- ▷ 都度寄付：1回限りの寄付をして活動を支援
- ▷ マンスリーサポーター：毎月定額を寄付して活動を支援（カード決済）

たぶんか子ども基金

経済的な理由から「たぶんかフリースクール」の授業料を負担することが難しい家庭等、子どもたちの学びを継続するための支援

次のいずれかの口座へのお振込み、または、クレジットカードからお手続きをお願いいたします。

- ・郵便局から：00110-8-407588／多文化共生センター東京
 - ・銀行から：ゆうちょ銀行／019店／当座 0407588／トクヒ）タブンカキョウセイセンタートウキョウ
- ※クレジットカードでのご寄付は、ウェブサイトからお申込みください。

○当センターの趣旨に賛同し、団体運営にかかわってくださる会員を募集しております。

- ・正会員 年会費 5,000 円（正会員には総会での議決権があります）
- ・賛助会員（個人） 年会費 1口 1,000 円、3口以上
- ・賛助会員（団体） 年会費 1口 30,000 円

みんぐる Vol.80 2025 年 3 月発行

編集：多文化共生センター東京事務局 発行：特定非営利活動法人多文化共生センター東京

※「みんぐる」は、英語“mingle”＝「2つ以上のものが各要素で区別できる程度に）混ざる・一緒にする・交流する」から名付けました。



【事務局・たぶんかフリースクール荒川校】

住所：〒116-0002 東京都荒川区荒川3-74-6
(メゾン荒川II 201)

TEL/FAX：03-6807-7937

e-mail：info@tabunka.or.jp

Open：火曜日～金曜日…午前9時から午後6時

土曜日 …午前10時から午後7時

ウェブサイト <https://tabunka.or.jp>



【たぶんかフリースクール杉並校】

住所：〒167-0021 東京都杉並区井草2-35-5

(杉並育英SITEC 内)

TEL：03-6915-0200

Open：火曜日～金曜日…午前9時から午後6時

フェイスブック、Xでも活動の様子を発信しています。
ぜひご覧ください！